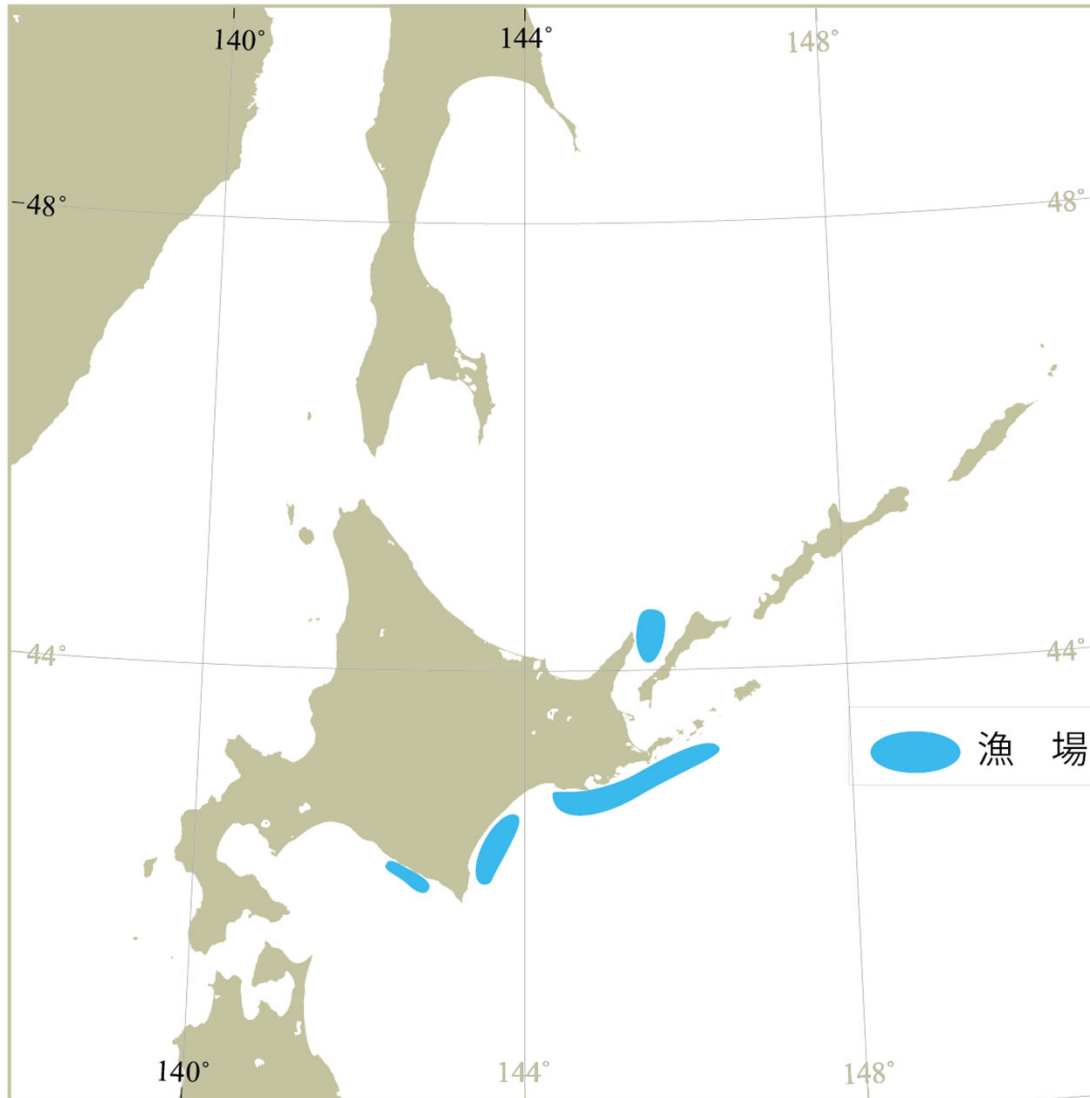




ホッケ

根室海峡・道東・日高・胆振  
令和7年度資源評価結果

# 生物学的特性

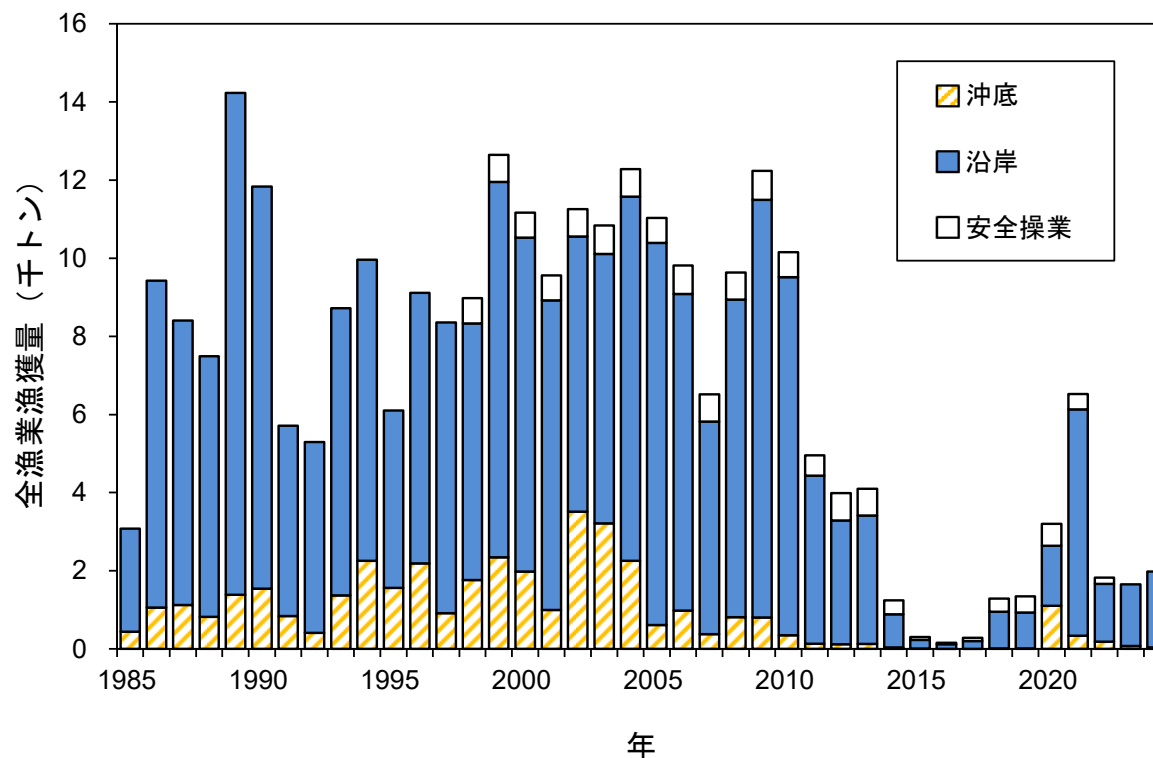


## 生物学的特性

- 寿命：10歳を超える
- 成熟開始年齢：雌は2歳（約30%）、3歳（約100%）
- 産卵期・産卵場：9月中旬～10月中旬（知床半島先端海域）、産卵場は日高、知床半島先端海域など
- 食性：仔魚期はカイアシ類、未成魚期はヨコエビ類、岩礁周辺に定着し始めると、魚類、魚卵、イカ類、エビ類、ヨコエビ類、オキアミ類など
- 捕食者：不明

- 主漁期は、春の索餌期と秋の産卵期

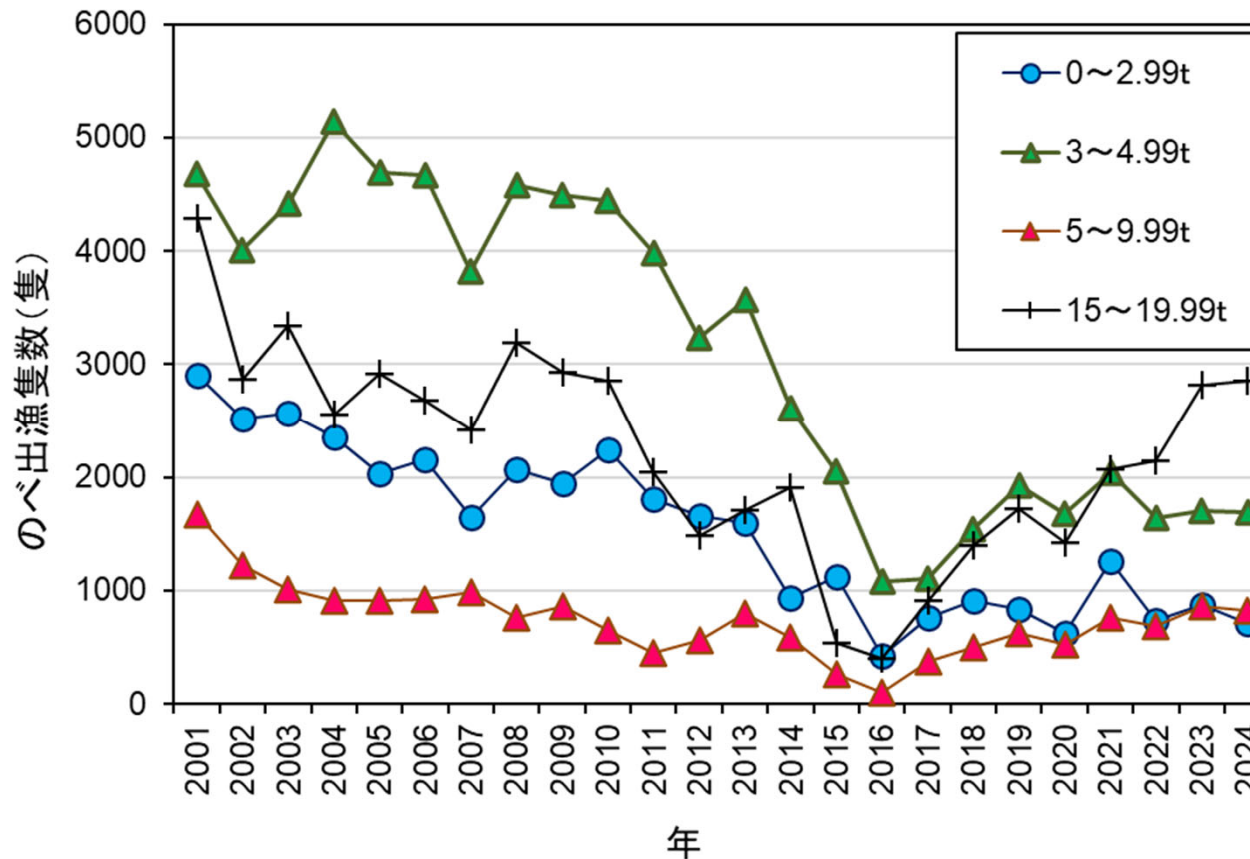
# 漁獲の動向①



- 総漁獲量 2024年：1,982トン（2023年：1,654トン）
- 沿岸漁業（刺網、定置網など）の割合が高く、ほとんどの年で7割を超えている
- 2020年に沖合底びき網漁業（沖底）の漁獲量が、2021年は沿岸漁業の漁獲量が急増したが、2022年以降は沿岸漁業で急減した

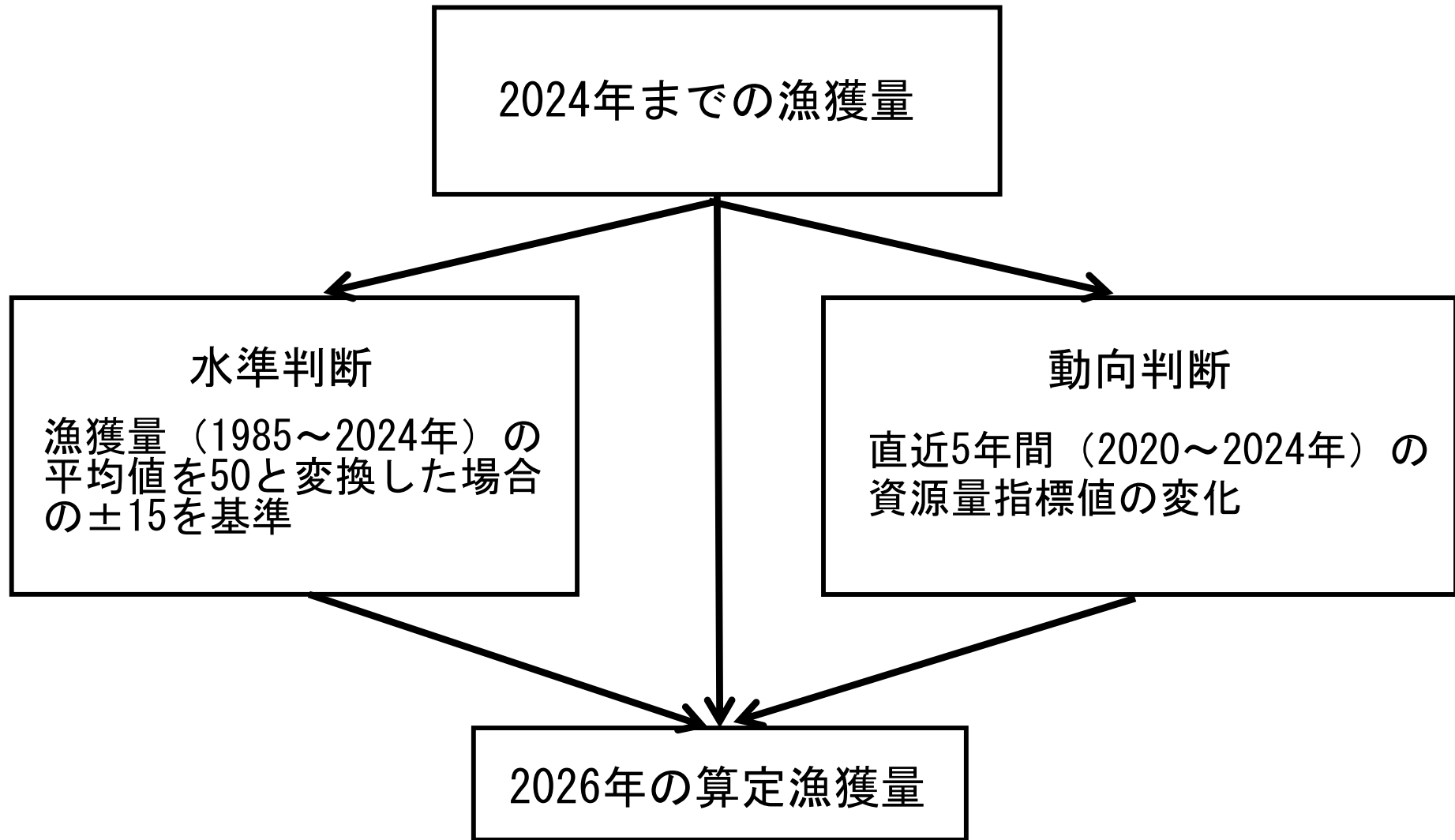
※ 総漁獲量：安全操業（「北方四島周辺水域における日本漁船の操業枠組み協定」に基づき、1998年から北方四島周辺水域で行われている日本の沿岸漁業）を除く漁獲量

# 漁獲の動向②



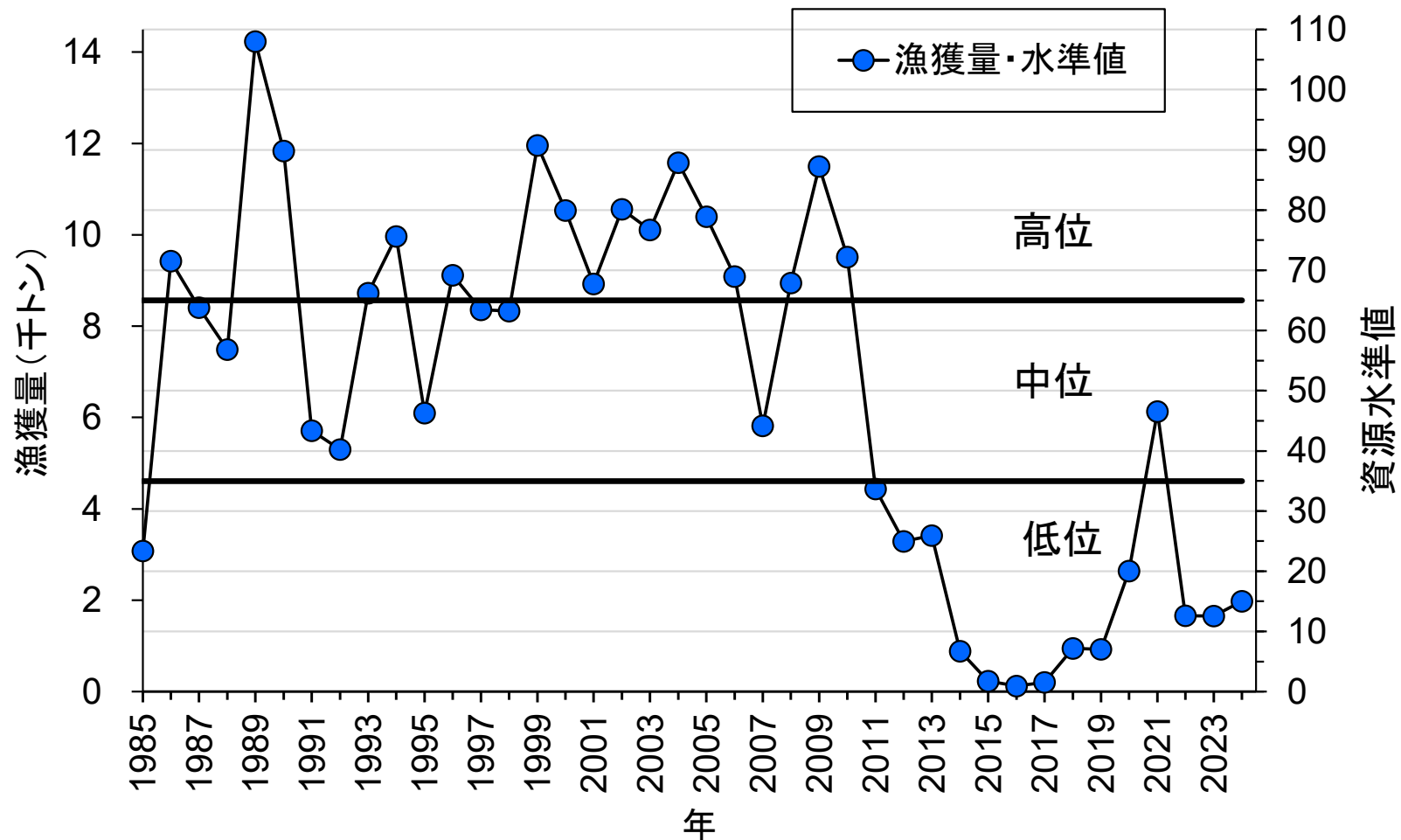
- 羅臼漁協所属の刺網漁船（例年漁獲の大半を占める）のトン数階層別のべ出漁隻数は、2016年まで減少傾向で推移、その後は15~19.99トンを除き、おおむね低い水準で推移

# 資源評価の流れ



※算定漁獲量は漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

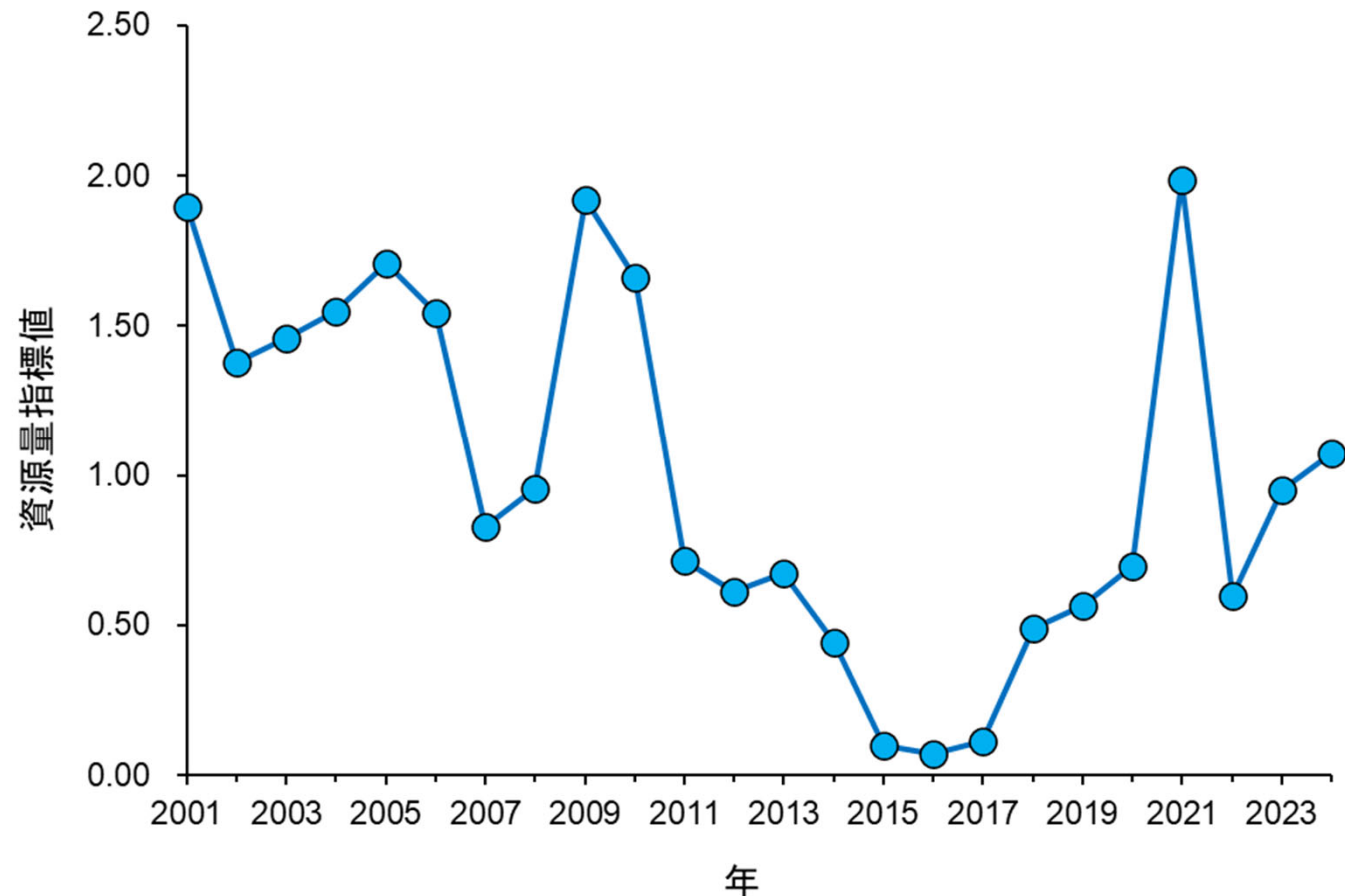
# 資源の動向①



※水準区分 低位／中位：資源水準値35、中位／高位：資源水準値65  
(1985年以降の漁獲量(安全操業除く)を平均値が50となるよう規格化し、±15を基準とした)

- 資源水準：2024年の資源水準値は15であり「低位」

## 資源の動向②



- 2001年以降の羅臼漁協所属の刺網の標準化CPUEを2001～2024年の平均値で割ったものを資源量指標値として用いた
- 資源動向：直近5年間（2020～2024年）の資源量指標値の推移から「横ばい」

※標準化CPUE：操業月や漁船トン数による偏りを取り除いた、1操業当たりの漁獲量 7

# 資源評価のまとめ

- 資源水準は「低位」、動向は「横ばい」
- 漁獲量（安全操業除く）と羅臼の刺網漁業の標準化CPUEに基づいて資源状態（水準・動向）を判断した

## 2026年算定漁獲量

管理基準	Target/ Limit	2026年 算定漁獲量 (トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値からの増減%）
0.7・Cave3-yr・1.27	Target	1,260	-	-
	Limit	1,580	-	-

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則の2-1) より、  
 $ABC\ limit = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$  で計算
- $\delta_1$  : 0.7 (Cave3-yrを使用し、かつ低位水準である場合の推奨値)
- $Ct$  : Cave3-yr (直近3年間(2022~2024年)の平均漁獲量)
- $\gamma_1$  : 1.27 (直近3年間の資源量指標値の傾きと平均値から求まる係数)